

スポーツ産業論		講義	講師 菅谷 美沙都	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目 スポーツトレーナーコースの専門選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11312206	12220213
			13220206	11532203
			12532203	13532203

## 1. 授業のねらい・概要

私たちにとってスポーツは非常に身近なものとなり、スポーツを楽しむ場所や機会は飛躍的に増大した。スポーツ参加の機会は増えるとともに、私たちはスポーツにおいても消費行動を展開するようになった。この授業では、スポーツ観戦やスポーツ関連商品の消費行動から、プロスポーツのクラブビジネス、プロリーグの構造などスポーツ産業全般を理解するとともに、スポーツ産業の諸領域の今日的な課題を議論する。将来、スポーツ関連の仕事に携わりたいと考えている学生にとって、スポーツの価値を活かし、スポーツ産業界で仕事を創り出すとはどういうことなのか、具体的なイメージを抱けるようになることを目指す。

## 2. 授業の進め方

授業ではレジュメを配布する。また、隔回授業最後にリアクションペーパーを提出し、授業内容の理解度を確認する。

## 3. 授業計画

1. オリエンテーション (授業の進め方、成績と評価について等)	9. 日本のプロスポーツ① (リーグの構造)
2. スポーツ産業とは (スポーツ産業の領域、スポーツ市場の現状)	10. 日本のプロスポーツ② (プロ野球のマネジメント)
3. スポーツ用品産業	11. スポーツスポンサーシップ
4. スポーツ施設産業	12. 権利ビジネスとしてのスポーツ (スポーツ選手の契約、企業との権利関係)
5. スポーツサービス情報産業 (スポーツとメディア)	13. スポーツファンを知る (みるスポーツとしてのビジネス展開)
6. フィットネスクラブのマネジメント (フィットネス産業の現状、サービス特性)	14. 海外のプロスポーツ (欧州の事例)
7. クラブ事業のマネジメント (チーム、クラブ、球団、ステークホルダー)	15. 大学スポーツの産業化を考える/まとめ
8. オリンピックとスポーツ産業界 (オリンピック開催を巡る諸問題)	

## 4. 準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業時に配布するレジュメや資料等を復習し、疑問点を明確にしておくこと。また、次回の講義内容に関する時事問題 (新聞記事などを事前に配布することもある) を自ら調べること。これらの自主学修には2時間以上が必要である。

## 5. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

試験実施の直後、解答のポイントや評価の基準に関する説明を行う。また、中間レポートやリアクションペーパーについては、授業内で優秀な回答例を紹介し評価の基準等の解説を行う。

## 6. 授業における学修の到達目標

スポーツ産業の成り立ちや全体像を理解し、個別具体的なスポーツ産業領域の現状を理解する。

また、スポーツ産業の諸領域における今日的課題について理解を深め、論理的に自分の意見を記述できるようにする。

## 7. 成績評価の方法・基準

期末試験（50%）、中間レポート及びリアクションペーパー（30%）、授業態度（20%）をみて総合的に評価する。

#### **8. テキスト・参考文献**

教科書は特に指定しない。適宜、資料・プリントを配布する。

参考文献：原田宗彦 編著「スポーツ産業論第7版」（杏林書院，2021）

#### **9. 受講上の留意事項**

特になし。

#### **10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無**

該当しない。

#### **11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。